



ハケ・用水・わき水通信

NPO法人 府中かんきょう市民の会
 発行 2025年3月1日(土) No.51
 編集人 葛西利武 Tel.090-5564-5838
 H P http://f-env.sakura.ne.jp
 府中市市民活動センタープラッツ登録団体

冬の野鳥観察会(2025年1月18日)

寄稿/佐藤智恵子 田中香代子

空気が冷たく、快晴の観察会日和

東屋付近の用水路に水は来ていなくて、鳥が来る場所が少ないのではと心配です。シジュウカラ、ツグミ、ウグイスの音が聞こえる中、ハケ下用水路沿いを西方へ出発。

「チャッ チャッ」というのが秋冬の頃のウグイスの鳴き声です。おしゃべりなヒヨドリが飛び回っており、ハシブトガラスが時々通り過ぎて行きます。ハシブトガラスかハシボソガラスかの見分け方は名前のおりくちバシの太さのほかに、飛び方がゆったりしているほうがハシブトガラスだとのこと。

カサカサという音がするところへ目をやると、キジバトが落葉のかき分けて食べ物を探している様子。日新町一丁目北信号付近で、上から小さく音がするので見上げると、コゲラ(㊦写真)がつかいでせっせと木をつついていました。落ちてきた木のかけらを見ると、虫がいたような穴が空いていたので見つけて食べているのでしょう。シジュウカラも同じ木で、つかいでせわしく枝を飛び回っていました。



コゲラ



カルガモ

メジロとウグイスの違い

雨水第三幹線緑道から用水路に水があり、カルガモが2羽(㊧写真)のんびりしていましたが、我々に見つめられて居づらくなったのか、水の少ない用水路を泳いでいるのか歩いているのかと言った感じでクワックワックと小さく鳴きながら去っていきました。

用水の上まで枝のでている木にメジロがおり、こちらに気が付いていないのか、かなり近くで見られました。竹藪のあたりで、声しか聞いていなかったウグイスの姿を見ることが出来ました。

大きさと色合いが似ているので、メジロとウグイスはよく間違えられるようですが、メジロは目の周りが白い特徴が

ありきれいな黄緑色です。一方、ウグイスは茶褐色です。一般的によく目にする色名の「ウグイス色」に近いのは、メジロのほうだったりするので、ややこしいですね。

今後も、野鳥が見られますように

上空を白いサギが4羽ほど南から北へ飛んでいくのが見えました。川は南なのにどこへ行くのか興味深いです。白いサギは、ダイサギ、チュウサギ、コサギなどがありますが、チュウサギは田んぼに多くこの辺にはいない(東京では準絶滅危惧Ⅱ類VU) そうなので、ダイサギかコサギとのこと。

湧水辺りから西は、オナガ(㊨写真)がたくさん来ていて騒がしく飛び回っていて、キジバト、カワラバト以外の鳥は出てこなくなってしまうようです。低木にはスズメが数羽集っていました。

スズメといえば、いま、だいぶ減ってきているという話を耳にしました。大変、残念なことです。昔から普通に見られていた生き物ですから、今後もそうであるようにと願っています。

(佐藤智恵子)



オナガが鈴なり状態

野鳥観察会

田中香代子

日時/2025年1月18日(土) 9:30~10:45 天候☀️
 参加者/会員4人(浅田、葛西、佐藤、田中)、第一造園2人 計6人

<観察された野鳥>

カルガモ、キジバト、コゲラ、オナガ、ウグイス、シジュウカラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、スズメ
 外来種カワラバト(11種+外来種1)

<一口メモ>

- ①コゲラ(キツツキ科) スズメほどの大きさで、日本最小の小形キツツキ類。留鳥として北海道から西表島まで分布する。雑食性で幹の中に潜む昆虫類を捕食するほか秋には樹木の実もたべる。繁殖期を中心にドラミングすることがあるが音が細く、カエルの声のようだ。
- ②ウグイス(ウグイス科) オオルリ、コマドリと共に日本三鳴鳥に数えられる。藪を好み、「ホーホケキョ」のさえずりで春の訪れを告げる。

講師 水川薫子

分解されないから、永遠に残るPFAS(有機フッ素化合物)問題。日本のみならず、ストックホルム条約、WHO・世界保健機構等にも見られるように、世界的な環境汚染問題である。

当会は長年、西府町湧水と多摩川の水質検査に取り組み、「水環境」に関心をもってきた。そのような中で今回初めて「水環境を考える／多摩地域におけるPFASの現状」と題して、以下の要領で学習会を開催した。詳細は会報春号(通巻97号4月9日)に掲載予定。

☆

講師 水川薫子(農学博士 東京農工大学農学研究院(カオルコ) 物質循環環境科学部門)

日時 2025年2月2日(日) 14:00~16:00

会場 府中市男女共同参画センター「フチャール」

参加者 41人(一般28人 会員13人)



水川薫子講師

当日のレジメ

2025年2月2日

NPO法人 府中かんきょう市民の会 学習会

～多摩地域における PFAS 汚染の現状～

「水環境を考える」

1. 開場 13:30
2. 開会あいさつ 14:00
3. 「水環境」に関するこれまでの取り組み
4. 水川薫子講師による講話 1時間
5. 質疑応答 (質問用紙に記入をお願いします。)
6. 閉会あいさつ 16:00

< これまでの取り組み >

* 府中市内の湧水「西府町湧水」年2回水質と毎月水量の調査(府中市受託事業)

結果は、府中市発行「府中の環境」冊子に掲載

湧水が流れる西府崖線の保全活動 会発足以前から 25年以上

* 「身近な水環境の全国一斉調査」毎年参加(コロナ禍のみ中止)

多摩川流域内 2 か所の水再生センターを挟む左岸 6 地点の水質調査

* 22年～中長期計画「水じゅんかん問題」より昨年「水循環保全活動」発足

* 24年5月 PFAS 特集号発行(公財法人あしたの日本を創る協会助成金)

* 24年6月 市長へ PFAS に関する要望書提出

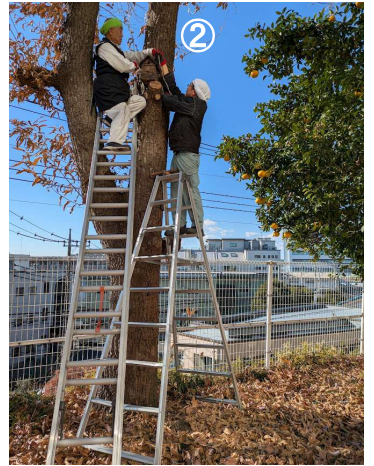
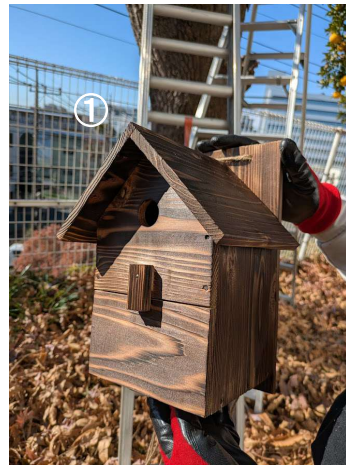
ハケ情報

剪定・整枝講習会のお知らせ

今年も恒例の「剪定・整枝講習会」を西府崖線で開催いたします。集合場所は、JR南武線 西府駅南口下車(株)NEC方面徒歩5分ほどの、カッパ池と新府中街道トンネルの中間点です。剪定ばさみをお持ちの方は、ご持参を。

記

- ・日時 3月26日(水) 9:00~11:00
- ・先着5名
- ・講師 (株)第一造園庭師
- ・申込み、問合せ先は「広報ふちゅう(3月1日号)」の「ひろば欄」に掲載



西府崖線(ハケ)沿いの府中第五小学校は50年にわたる東京都愛鳥モデル校です。今年1月9日に立派な巣箱を取り付けました。
①野鳥にとっては豪邸の巣箱 ②クヌギの大木への取付け ③無事に取り付けられた巣箱。

44 ネコノチ (猫の乳) クロウメモドキ科

果実は黒色の長楕円形で、猫の乳頭に似ていることから名がある

NPO法人府中かんきょう市民の会



ハケ最西端のネコノチ(44番)が場所を民有地から市有地へ4mほど移動。新天地で無事に根付く。

㊦㊧はネームプレートの拡大